

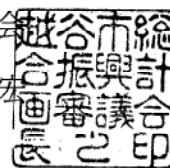


令和2年(2020年)7月30日

越谷市長 高橋 努 様

越谷市総合振興計画審議会

会長 石崎 一 夫



第5次越谷市総合振興計画基本構想(素案)について(答申)

令和2年6月23日付け、越政第59号をもって諮問のありました事項のうち、  
第5次越谷市総合振興計画基本構想(素案)について、別紙のとおり答申します。

## 答 申

本審議会において、第5次越谷市総合振興計画基本構想（素案）について、慎重に審議した結果、本市の将来像やまちづくりの目標など、今後10年間のまちづくりの方向性としては概ね妥当であると判断し、下記を付帯意見として添え、答申といたします。

災害などのさまざまなリスクへの懸念が強まるなど、今後の社会情勢が不透明ななかにあっても、市民が夢を抱き、将来にわたって住み続けたいと思える、魅力ある越谷市となるよう、付帯意見を踏まえ、今後10年間のまちづくりが推進されることを望みます。

また、本審議会で出された各委員の意見につきましては、今後、基本構想の策定を進めるにあたり、十分参考とされるよう望みます。

## 記

- 1 人口減少・少子高齢社会といった将来の課題を見据え、個々の多様性を認め合い、共生によるまちづくりを進めていくために、外国籍を有する市民にも、市政に参画しやすい環境整備の推進に努めること。また、多世代による共生を推進するため、子育て中の若い世代や青年期などの若年層を地域で支える取組みの充実を図ること。
- 2 まちづくりの目標に関して、市民が具体的なまちの将来像を把握できるものとするとともに、地球規模の環境問題への取組みなど、広い視野でまちづくりを捉えること。  
また、まちづくりに関する計画は様々なものがあるが、その策定にあたっては、企画・立案段階における市民参加の取組みをさらに推進すること。
- 3 全てのまちづくりの目標に関わる重要な要素として、AIなどの最新技術の活用に取り組むこと。

- 4 市民・地域との協働のまちづくりに関して、人と人とのつながりが希薄化するなか、新たなコミュニティの築き方、在り方を示すなど、コミュニティ活動に対するさらなる支援を図ること。
- 5 台風や大雨などの自然災害に強いまちづくりに関して、地区住民の防災に対する意識や安全・安心な地域づくりへの関心は高く、地域防災の果たす役割は大きいことから、防災拠点としての機能を担う地区センターの整備も含め、地域からの防災の推進に努めること。さらに、自然災害のほか、新型コロナウイルス感染症など、近年、想定を超える事態が発生していることから、さらなる危機管理体制の充実を図ること。
- 6 だれもが生涯にわたり学んだ成果を地域社会に還元できる「循環型生涯学習社会」の実現においては、学習成果の還元の間とともに、学習成果を還元する仕組みの整備に取り組むこと。

以 上